

## 特別展 現代陶芸の鬼才 栗木達介展 Kuriki Tatsusuke: Retrospective

～9月27日(日)まで



本展では、栗木達介(1943-2013)の初期から晩年までの作品137点を展示しています。会場入口では、京都市立美術大学の卒業制作《黒い柱のモニュメント》(1966年、個人蔵)をご覧ください。また、手びねりで制作された《しろとぎんの作品I》(1974年、東京国立近代美術館蔵、写真左)は、面のふくらみ、くぼみ、口径部分の三要素の造形が追求され、今にも動き出しそうな生命力を感じる作品です。栗木の世界に会いに、是非お越しください。



会場の様子

## 次回企画展 琳派400年記念「琳派イメージ」展

10月9日(金)～11月23日(月・祝)まで

400th Anniversary of the Rinpa School: The "RINPA" Image

江戸時代の俵屋宗達、尾形光琳・乾山兄弟、酒井抱一、鈴木其一などを代表的な作家とする琳派。琳派は「派」とついてはいますが、宗達から光琳の間が100年空いているように、流派として受け継がれてきたわけではなく、先人の仕事を慕う作家達がそれぞれに尊敬し、手本とするという特殊な形で展開してきました。しかし、他の多くの流派が生き残れなかった一方で、「琳派」は現代に至るまで様々なジャンルで受け継がれています。それは、「琳派」が新鮮で、自由で、魅力的だったからと言えるでしょう。



本展覧会では、琳派の魅力に引き付けられた近代から現代にかけての作家たちが生み出した、絵画、工芸、版画、グラフィック、ファッションなど、あわせて約80点の作品を3つの章に分け、琳派の広がりをご紹介します。

(写真) 神坂雪佳《杜若図屏風》、大正末～昭和初期

## 記念講演会「抽象表現とリアリティ」

日時: 10月31日(土) 午後2時～3時30分

講師: 上村 淳之氏(文化功労者・日本芸術院会員・日本画家)

会場: 京都国立近代美術館 1階講堂

定員: 先着100席

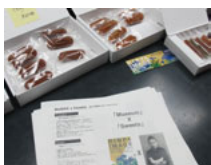
\* 聴講無料

\* 当日午前11時より、1階インフォメーションにて整理券を配布します。

### MoMAK 限定スイーツ開発中!

「琳派イメージ」展の開催にあわせ、現在、京都国立近代美術館(MoMAK・モマック)限定スイーツを開発しています! 監修は宇治市出身で世界的に有名な人気パティシエ、垣本晃宏氏です。

商品は、10月9日(金)より、当館1階ミュージアムショップ(アールプリュ)にて販売開始予定です。当館の「友の会」会員の方は、会員証のご提示で10%オフになります。



「琳派イメージ」展の会期中は、ミュージアムショップへも是非お立ち寄りください!

## 友の会特別解説会

日時: 11月5日(木) 午後3時～4時

集合場所: 当館1階ロビー

※当日は、開始5分前までにお集まりください。

募集人数: 先着20名

解説者: 小倉 実子(当館主任研究員)

申し込み先: 京都国立近代美術館 総務係

電話: 075-761-4114(月曜から金曜まで、午前10時～午後5時)

メール: info@ma7.momak.go.jp

(件名は「友の会特別解説会申し込み」としてください。)

※お申込の際は、お名前・会員番号をお伝えください。

## イベント報告 友の会特別解説会を開催しました(7月31日(金))

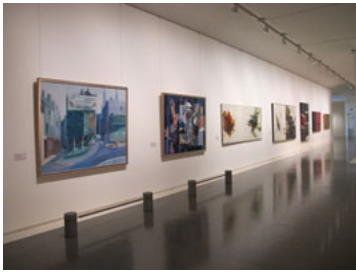
今回の解説会は、4階コレクション展の「絵の中のうつわ」のセクションから始まりました。3階の北大路魯山人展に関連して、洋食器を使う様子を捉えた作品や静物画をピックアップして展示していることをご紹介します。また、ピエール・ボナールの作品についての質問があり、彼の作品に特有の多視点性についても解説しました。

続いて、「ポスターにみる ミュージカル映画の世界」展に移動しました。ここでは、アメリカの映画ポスターの特徴として、文字情報が多いことを挙げました。さらに、小さなモチーフを自由に配置できる点が、デザイナーの腕の見せ所であったことについても触れました。夜間開館の時間に実施したこともあり、ひとつひとつの作品とゆっくり向き合うことができました。



特別解説会の様子

平成 27 年度 第 3 回 コレクション展 ～10 月 4 日 (日) まで



4 階コレクション・ギャラリーでは、現在、「受贈記念 鳩川誠一<sup>におかわ</sup>」と「堂本尚郎<sup>ひさお</sup>」の 2 つの特集展示を行い、新収蔵品をお披露目しています。また「現代陶芸の鬼才 栗木達介」展に関連し、栗木が京都市立美術大学（現・京都市立芸術大学）で影響を受けた富本憲吉（1886-1963）と、先輩である加守田章二（1933-1983）の作品を展示しています。さらに展示室の一角では、NHK「みつけよう、美」キャンペーンの一環として、過去の「日曜美術館」の映像から、富本憲吉が磁器に金銀彩を施す様子などをご覧ください。



会場写真：特集展示 2：堂本尚郎（左上）、アーティスト+ボックス（左下）、初秋の日本画（右下）

主なテーマ

- 特集展示 1：受贈記念 鳩川誠一
- 特集展示 2：堂本尚郎
- ルオーとシャガールの絵画と版画
- 初秋の日本画
- アーティスト+ボックス（これは図書です）
- 富本憲吉と加守田章二
- 河井寛次郎 作品選 川勝コレクションより

【予告】第 4 回コレクション展 前期展示：10 月 7 日（水）～11 月 8 日（日）、後期展示：11 月 10 日（水）～12 月 6 日（日）



NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films 2015

ニュース映画を中心に見る 戦時期日本の実像と虚像

今年最後の MoMAK Films では、戦後 70 年の締めくくりとして、戦時期の貴重なニュース映画の数々と、当時の戦争報道と関わりをもつ 2 本の劇映画を組み合わせたプログラムをお届けします。

ニュース映画は、とりわけ 1937 年の日中戦争勃発とそれに伴う報道の過熱を機に未曾有の活況を呈しました。国策に従順でプロパガンダ色も強いことが前提ですが、当時の日本人の生活ぶりや世相を浮き彫りにするような細部も見逃しません。村岡花子の穏やかなナレーションが印象的な『聯合コドモのニュース』（10 月 24 日上映）も必見です。



『チョコレートと兵隊』より



『西住戦車長傳』より

10 月 24 日（土）

午後 2 時～2 時 50 分

『聯合コドモのニュース』（計 31 分・16mm・白黒・聯合映画社）

第二輯「天気豫報の出来るまで」「ワン君とチイちゃん 動物の友愛」ほか（1938）

第三輯「われらの陸軍」「可愛い紙芝居」ほか（1938）

第七輯「音の不思議」「少年警官が生まれました 大阪」ほか（1938）

\* 上映開始前に、企画担当者がプログラムの見どころを解説します。  
講師＝北小路隆志（京都造形芸術大学准教授）

午後 3 時 10 分～4 時 24 分

『チョコレートと兵隊』（74 分・35mm・白黒）

1938 年（東宝東京）監督：佐藤武

原作：小林勝、脚本：石川秋子、出演：藤原釜足、澤村貞子、霧立のぼる、高峰秀子、汐見洋、横山運平、小高まさる

10 月 25 日（日）

午後 2 時～2 時 35 分

『朝日世界ニュース』（計 35 分・16mm・白黒・朝日新聞社）

No. 148 「落下傘遂に開かず 低空落下試験の犠牲（東京・洲崎）」ほか（1936）

No. 193 「上海戦線」ほか（1937）

No. 227 「古今の傑作目も綾に戦争美術展開幕（東京）」ほか（1938）

No. 261 「無敵陸軍の精華 戦車隊大行進（東京）」ほか（1939）

午後 2 時 50 分～4 時 56 分

『西住戦車長傳』（126 分・35mm・白黒）

1940 年（松竹大船）監督：吉村公三郎

原作：菊池寛、脚本：野田高梧、出演：上原謙、佐分利信、桑野通子、近衛敏明、兒玉一郎、西村青兒、河原侃二

1 プログラム：520 円（当日券のみ）

チケットは会場入口にて、午後 1 時 30 分より販売開始

会場：当館講堂

各回入替制・定員 100 名

企画協力：北小路隆志（映画評論家 / 京都造形芸術大学准教授）

板倉史明（神戸大学大学院准教授）

京都国立近代美術館賛助会員・一般会員

当館は下記、賛助会員の皆様からご支援・ご支持をいただいております。

